

<b>キャベツの斑点症（仮称）発生の品種間差と軽減技術</b>			
【要約】キャベツの斑点症の発生程度には品種間差があり、8月下旬定植においては、‘夢舞台’や‘冬まどか’が少なく、‘彩ひかり’では多い。しかし‘彩ひかり’は9月上旬に定植を遅せると発生を軽減できる。			
農業技術振興センター・栽培研究部・野菜担当		【実施期間】 平成19年度～平成20年度	
【部会】 農産	【分野】 高品質化	【予算区分】 県単	【成果分類】 指導

### 【背景・ねらい】

斑点症（仮称）はキャベツの結球葉の両面に（葉の外側に比べ内側に多い）小黒点が発生する症状で、結球内部に発生し収穫時での選別が困難である。以前は、天候の影響により収穫期が前進した晩生品種にまれに発生する程度であったが、近年では、発生の増加と発生時期の拡大が認められ、平成18年度作では、3月収穫のキャベツにも発生が確認された。斑点症は多発すると商品化率を大きく低下させることから、発生程度の品種間差および被害軽減技術を検討する。

### 【成果の内容・特徴】

- ① 8月下旬定植の冬どりキャベツの収穫期の斑点症の発生程度は‘彩ひかり’ > ‘夢舞台’ > ‘冬まどか’の順に多い（図1）。
- ② 斑点症は‘彩ひかり’の結球前期（定植後56日後）では全株全葉に認められないが、結球中期（定植後72日後）には調整後の結球部最外葉から6～34葉目にわずかに発生する。結球中後期（定植後86日後）には結球部最外葉から8～41葉目に発生が拡大し、12～32葉には50個／葉以上の斑点が生じる（写真1、図2）。さらに、収穫期には結球部最外葉から4葉目まで発生が拡大するとともに、一葉あたりの発生数も著しく増加する。
- ③ ‘彩ひかり’は8月下旬に定植すると斑点症が発生するが、9月上旬に定植すると発生しない（図3）。
- ④ 以上の結果により、キャベツの斑点症は、8月下旬定植では品種の選択により、また、斑点症の発生が多い‘彩ひかり’でも9月上旬の定植により、斑点症の発生を軽減できる。

### 【成果の活用面・留意点】

- ① 施肥はN16.4、P19.6、K15.1(kg/10a)を元肥に、N10.6、P6.6、K9.2(kg/10a)を定植2週間後と結球開始時に分施した。
- ② 栽植密度は、平成19年は畝幅135cm、株間35cm、平成20年は畝幅135cm、株間40cmとした。
- ③ 育苗は128穴セルトレイに播種し、ハウス内でベンチ育苗した。

[具体的データ]



写真1. 斑点症

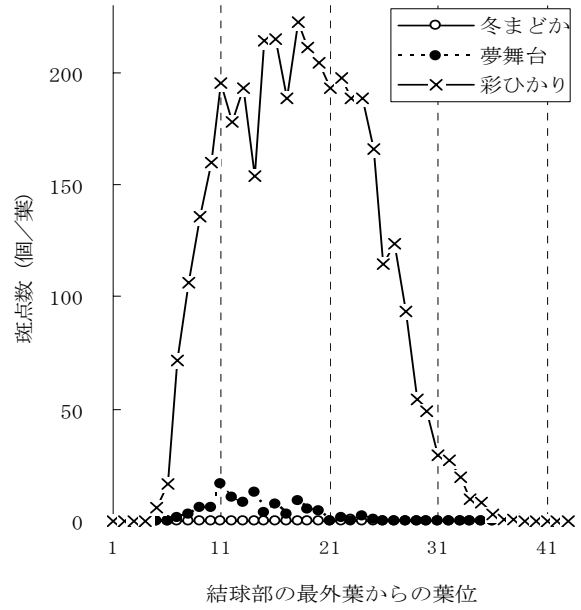


図1 品種別斑点症の発生数 (8月21日定植)

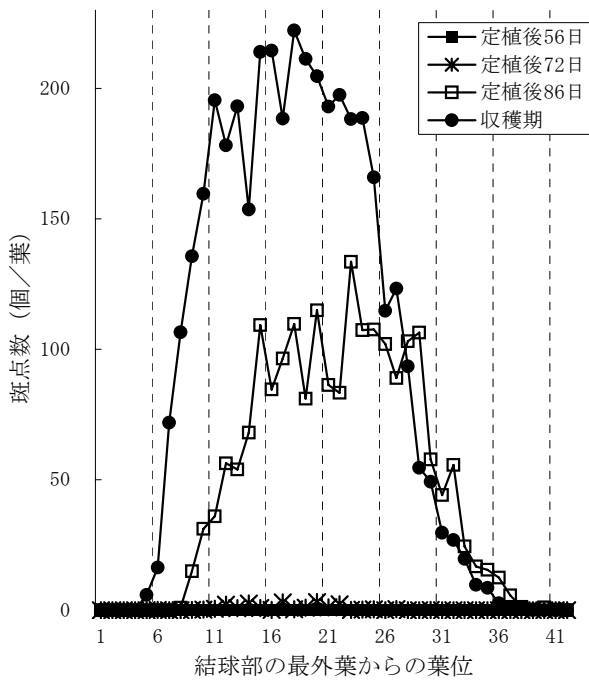


図2 時期別、葉位別斑点症の発生数 ('彩ひかり' 8月下旬定植)

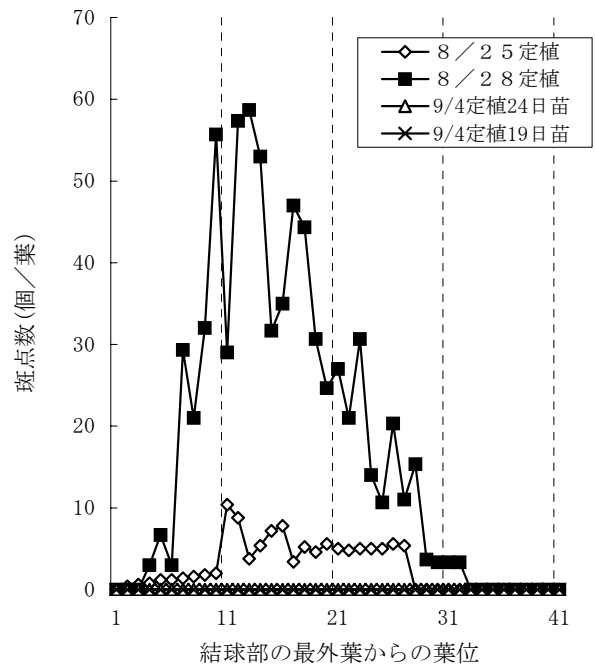


図3 定植期別斑点症の発生数 ('彩ひかり')

注) 図1、2は平成19年7月27日に播種し8月21日に定植し、1月10日に収穫調査した。図3は平成20年8月1日に播種・同25日定植、8月6日播種・同28日定植、8月11日および16日播種・9月4日定植とし、1月7日に収穫調査した。

[その他]

- ・ 究担当者名：伊吹久美 (H20)、田中寿 (H19)
- ・ その他特記事項：平成19年度技術的試験研究要請課題 (東近江地域振興局)  
平成20年度野菜研究会で発表